岡部光明 ゼミナール

研究論文「概要」集

2009 年度 春学期

明治学院大学　国際学部

岡部光明ゼミナール 2009年度春学期

研究論文「概要」集について

この冊子は、明治学院大学国際学部における岡部光明ゼミナールの履修者諸君が2009年度春学期に執筆したタームペーパー（学期論文）につき、その概要部分（目次および主要図表を含む）を取り出して印刷したものです。このようなかたちでゼミ生の研究成果を刊行するのは過去２回実施しているので、本冊子は第３号になります。これらのタームペーパーは、すべて研究成果発表会（2009年7月18日-19日、湘南国際村で実施）において報告され、そこでの議論を踏まえて改訂されたものです。

この冊子を作成したのは、従来と同様（1）個々の学生が手がけた研究の内容を残すことに意味があること、（2）ゼミ生がお互いに研究テーマを知り合うことによって問題意識を相互に向上させると期待できること、さらに（3）今後岡部ゼミを志望する諸君にとって同ゼミの進め方等について参考にしてもらうこと、などのためです。

ゼミナールの運営方式

岡部ゼミナールの運営方式を参考までに述べておきます。最大の特徴は、２年生、３年生、４年生（今年度は合計１７名）が毎週２回、全員そろって演習室において三つの作業を並行して進めることによって学習と研究を進めたことです。

第一は、所定テキストの輪読と発表です。その目的は（1）学術書や論文をしっかりと読み込む力をつけること、（2）明晰な、正確な、そして効率的な日本語で発表し、討論する力をつけること（日本語の話し方の訓練）、この二つです。このうち（2）は論理力の訓練でもあり、国際的に通用する力を身に付けることを意味しています。

明晰な日本語がしっかり話せないのに、英語が上手に（説得性のある話し方で）話せることはありえません。日本語を話す時でも、常に意識して良い（明晰な）言葉を使うという姿勢を身につけてもらうことを意図しています。

第二は、私が週１回、マクロ経済学の入門的知識ないし論文の書き方などについて講義を行い、履修者にこれらの最も基本的な知識を身につけてもらうことです。ゼミ履修生の中には、これまで経済学の基礎授業をほとんど受講していなかった諸君もいたので、最低限の共通の知識を持ってもらう必要があり、また他の授業では論文の書き方を学ぶ機会が少ないからです。

第三は、これが最もエネルギーを要する作業ですが、学期毎にタームペーパーを各学生に作成してもらうことです。この義務を課すのは、問題設定能力、解析力、論文構成能力、政策提言能力をしっかり身に付けてもらうためです。これらの力量（知的スキル）こそが大学でほんとうに学ぶべきことであり、学生にとって永続性のある実力になるわけです。こうした力量は、手引き書を読んだだけで身につくものではなく、あくまで具体的テーマについて研究論文を実際に作成することによってのみ本当に自分のものとすることができるものです。またタームペーパーの執筆においては、内容が他からの引用である場合にはその旨を必ず明記するなど、研究における誠実性などの重要原則（academic integrity）を習得することも期待しています。

今学期のタームペーパーについて

今学期のタームペーパー（１７編）も、従来と同様、概して見事な成果といえるものになりました。タームペーパーは、いわゆるレポートとは異なり、小さいながらも学術論文の形式をとった研究論文です。今学期も学期中にゼミ生全員に中間報告を必

ず２回してもらうというプロセスを経ており、そこでのアドバイスを織り込むことによって学期末には見事な論文に仕上げられています。

当ゼミナールでは「日本経済の構造変化と政策課題」を一般的研究目標に掲げていますが、学生諸君各自が取り組む論文のテーマは自由に選定してよいという方式を従来から採っています。このため今回のタームペーパーでも、テーマは国内面あるいは国際面で標準的な研究領域に関するもの（雇用、格差、介護、環境、年金、企業など）のほか、海外経済に関するもの（例えば、米国経済、イスラム金融、イラン、ミャンマーなど）も少なくありませんでした。テーマ決定における自主性、多様性は今後とも維持したいと考えています。

このように毎学期タームペーパーを１編ずつ作成してゆけば、それらを統合することによって立派な卒業論文にすることができます。当ゼミにおける卒業論文は、そのような着実な積み重ね方式によって作成することを原則にしています。それはもっとも取り組み易い方法であり、またリスクの少ない方法（４年生の秋学期になってあわてなくてすむ方法）でもあります。このように着実に取り組んでいけば、４年次秋学期には、質、量両面で充実した卒業論文にすることができるはずです。

なお、このゼミナールへの参加を希望される諸君は、いつでも相談に応じますから申し出てください。履修希望者は、勉学の熱意が十分ある限り、学年を問わず積極的に受け入れる方針です。

2009 年 7月

明治学院大学 国際学部教授

岡部 光明

http://www.okabem.com/

目 次

演習３（４年生）

・従来の日本型労働システムの問題点とワークライフバランス（片谷 謙）・・・・・・・・・・・・8

・日本経済の発展：戦後復興から高度成長まで（高橋 知左）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

・米国における経済格差の現状と課題（平田 玄樹）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

・日本における教育格差：現状と課題（堀江 優妃）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

・イスラーム金融の安定性とその思想的背景：ｻﾌﾞﾌﾟﾗｲﾑ危機からの回避（増田憲人）・・・16

・イラン経済の現状分析：開放政策の行方（ワイエブ壮飛杏）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

・地域ｺﾐｭﾆﾃｨの再生と協働：横浜市戸塚区の二つの地域事例を用いて（千原沙緒里）・・・20

演習２（３年生）

・企業の環境配慮戦略：世界的家具メーカーIKEAと㈱ニトリの対比（上岡 咲紀）・・・・・・22

・軍事政権国家ミャンマーにおける医療システム：その実情、問題点（日高 歩）・・・・・・・24

・日本における介護保険制度の特徴、問題点、今後の課題（藤崎 佳菜）・・・・・・・・・・・・・・26

・日本における環境税導入：地球温暖化防止の観点から（藻垣 静香）・・・・・・・・・・・・・・・28

・日本におけるM&A：その活用の変遷とその背景について（渡辺 沙織）・・・・・・・・・・・・・・30

・食糧問題の現状とその展望：世界貿易における農業問題の視点から（山田 真史）・・・・32

演習１（２年生）

・サブプライムローン問題における証券化の問題点と対策（石川大起）・・・・・・・・・・・・・・34

・オランダ型ワークシェアリングから考える日本の雇用形態（上原 彩）・・・・・・・・・・・・・・36

・バイオマスエネルギーの内容と将来（菊池 貴彬）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

・日本における年金構造の問題点と対策（菊池 亮佑）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40